

思考深める授業視察

パレスチナ教育関係者

パレスチナの教育関係者らが6月21日、名護市の東江小学校を訪れ、算数の研究授業を視察した。授業では5年生が図形の体積の求め方をグループで学んだ。子どもたちが意見を出し合い、思考を深めていく様子を、関係者らは撮影したり質問したりして熱心に観察していた。

(運動部・田嶋正雄)

名護の東江小で

「学び合い」に感心

訪れたのはパレスチナ自治政府教育庁の課長や地域ら10人。同自治区では理数



算数のグループ学習を視察するパレスチナの教育関係者ら＝6月21日、名護市・東江小学校

科教育やグループ学習などに課題があるとされ、「学び合い」を取り入れた授業改善に取り組んでいる同校など、市内の3小中学校が視察先に選ばれた。

森元吏生教諭の算数の授業で、子どもたちはへこみがある立体図形の体積の求め方について活発に意見交換。いったんへこみのない図形として考え、後からへこみの部分を引く求め方や、いくつかの図形に分けて最後に足す求め方など、アイデアを出し合った。

理解が早い子が他の子に分かりやすく説明したり、脱落しそうな子が友達の声かけで学習に復帰したりする様子も見られた。

パレスチナ教育庁のアブダルガニ・ムラド課長は「子どもたちの思考が活発に動く素晴らしいアクティブラーニングの授業だった」と称賛した。

東江小スーパーバイザーの村瀬公胤・麻布教育研究所所長は「いろんなアイデアが出てくる子、それを一生懸命聞こうとしている子が複数いた。その子どもたちがどのように伸びていくの

か、これから見守っていきたい」と感想を話した。それを、と考えがちだが、学習という気持ちで自然に出てくる」と教員らにアドバイスを送った。